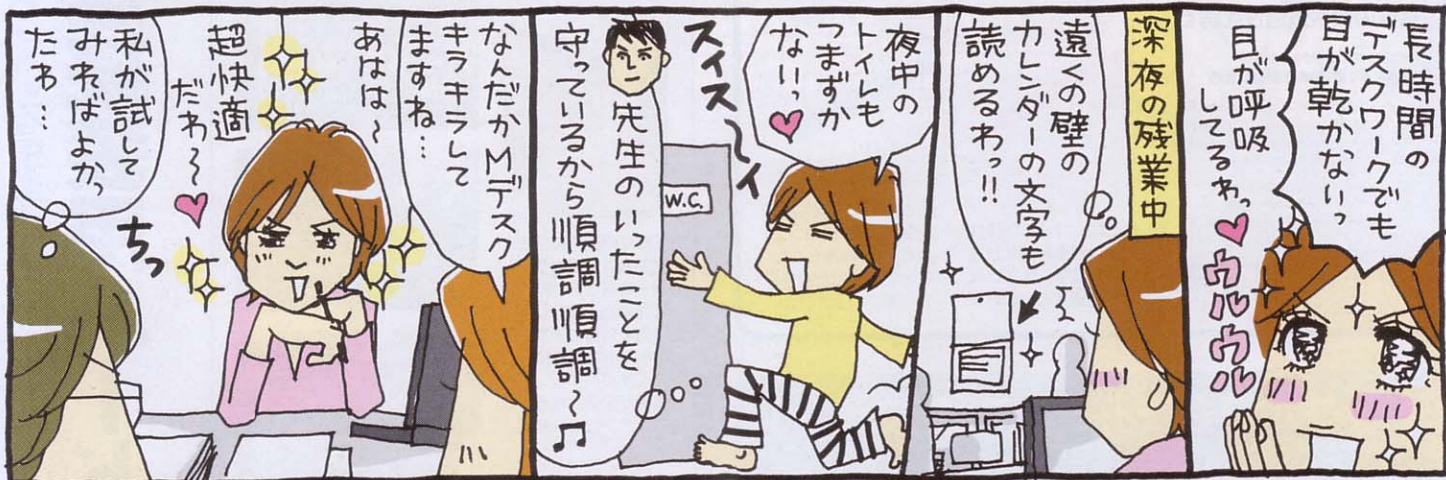
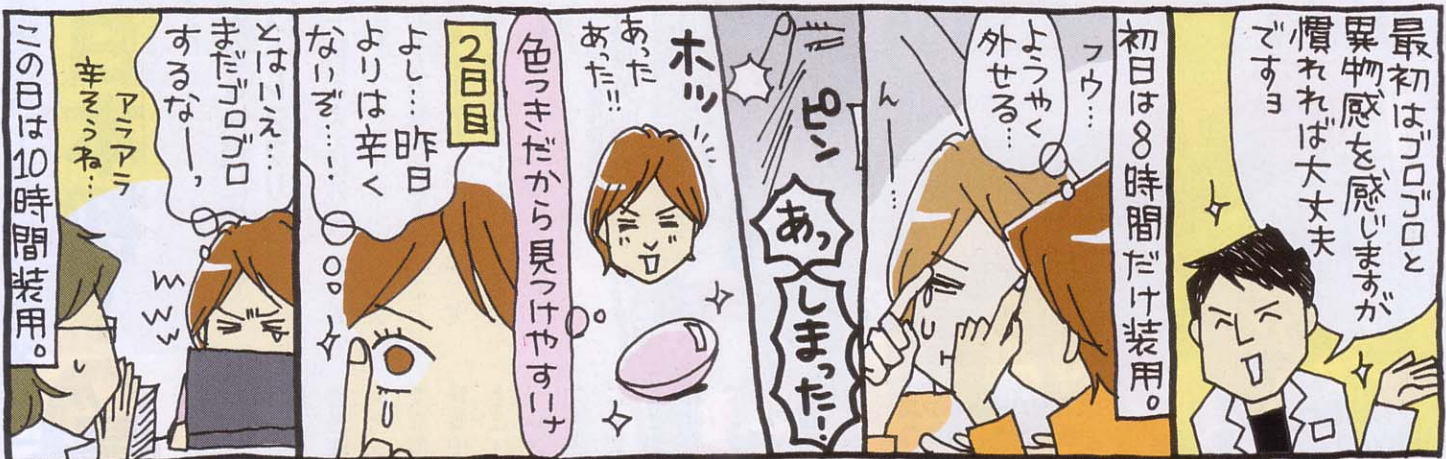
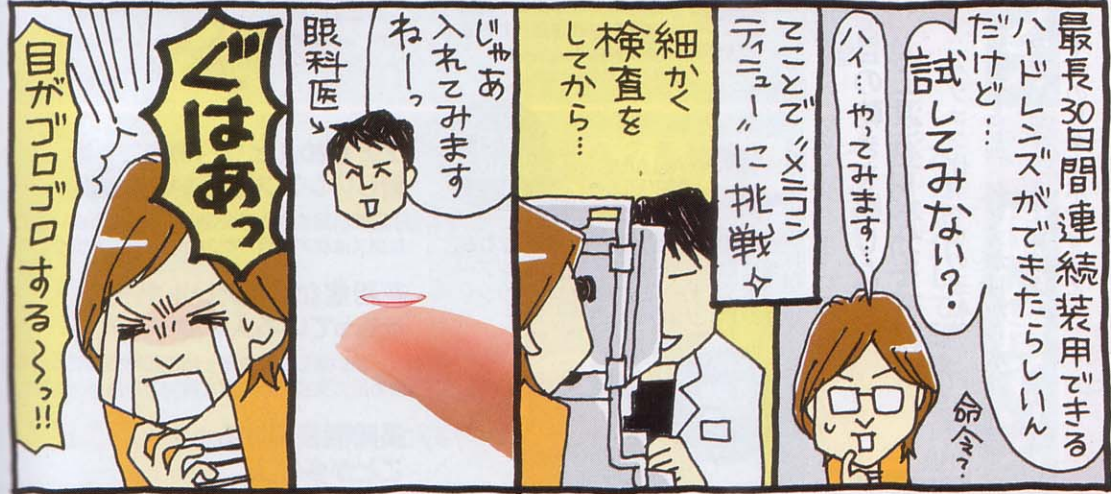
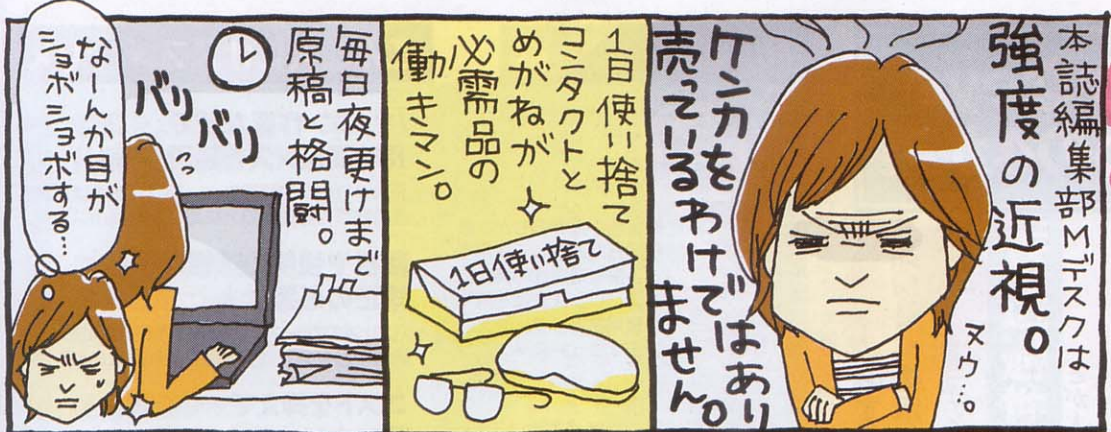


本誌Mデスクが
話題の
新商品をトライ!!

起きてすぐ、 目覚ましの針が見えたっ

眼科医の指導のもと最長30日連続装用できるハードレンズ『メニコンティニュー』で驚きっ!!



※レンズに慣れるまでの装用スケジュールには個人差があります。必ず眼科医の指示に従ったスケジュールで装用して下さい。涙の量、アレルギー体質などが原因で連続装用できない場合があります。

ソフトレンズ歴7年の本誌Mデスクがハードレンズで初めて30日つけっぱなしOKという『メニコンティニュー』に挑戦! ハードレンズへの移行は思った以上にハードだったものの、その先に待っていたのは明るい未来だった!

ハ 初期特有の装用感。瞬きをすると違和感を感じることもある。「初めは、これは無理」と思いましたが、でも1週間ですぐ慣れると聞いたので頑張りました。確かに1週間を超えたあたりから違和感がなくなり、逆に長時間着けてもさわやかな感じに。眼科医の指導のもとで睡眠中も着けっぱなしでOKなので、いつでも見える安心感もゲットできました! (Mデスク) 『メニコンティニュー』は、レンズ先端の直径が0.07mmという驚きの薄さ。装用感がグッとよくなっている。

「人真似をしない」で生まれた角膜コンタクトレンズ



と かく目に入れるもの、目に合うもの、をと思っってね。飛行機の風防ガラスを削って丸くして、自分の目にはめて。レンズを入れたまま木曾川に飛び込んだり、自転車走って乾き具合を確認したりね。なんべんも実験を繰り返しながら、これはイケる、って思ったんだ。

51年、日本初の角膜コンタクトレンズを自ら作り出した田中さんの信条は「人真似をしない」。

「レンズの素材も、作る機械も、うちだけのオリジナル。発想を大事にして、常に新しいものを作り続けていきたいんですよ」。その思いが、日本で初めて30日間連続装用できる画期的なハードコンタクトレンズ『メニコンティニュー』を生み出した。

将校夫人との出会いが人生を決定づけるきっかけに

→戦後、眼鏡店で働く田中さんの前に、コンタクトレンズを持っているというアメリカ将校夫人が現れたが、高価なものだからと実物を見せてもらえず開発を決意。

←製品検査の機械がない当時、レンズの先端部分はきちんと丸く削れているかなど、肉眼では分からないレンズの装用感を一枚一枚自身の目に入れて確認した。

